

# 人的資本経営

— 他社と差がつく人づくり

特集 1

大手と比べ経営資源が乏しい中小企業にとって、少数精鋭の人づくりと、優秀な人材から選ばれる企業になるための環境づくりは欠かせない。「人的資本の最大化」を実現した企業の事例から学ぶ、これからの経営の在り方——。取材・文 上阪徹

うえさか・とある  
ブックライター。1966年兵庫県生まれ、89年早稲田大学商学部卒業、ワールド、リクルートグループなどを経て、94年フリーランスに。近著に「マインドリセット」(三省堂)、「執筆協力を熱くなれ 稲盛和夫 魂の瞬間」(講談社)など。

CASE 1  
株式会社  
常磐植物化学研究所



CASE 2  
アラオ株式会社



CASE 3  
大東自動車株式会社



Interview  
法政大学  
キャリアデザイン学部・  
大学院 教授  
田中研之輔



代表取締役社長  
たつき じん  
立崎 仁



「社会貢献意欲に溢れた社員が多い」ことが、今や立崎社長の自慢だ。本社は千葉県だが、全国各地から採用希望の問い合わせがあるという (撮影 編集部)

CASE 1

株式会社常磐植物化学研究所

「会社概要」  
▽創業 1949年 ▽事業内容 医薬品原薬、化粧品原料等の製造及び販売  
▽従業員数 120名 ▽本社 千葉県佐倉市

## 社員の力を引き出すには、「土壌づくり」から始めよ

制度や仕組みを変えるだけでは、会社は変わらない。危機的状況から抜け出すために立崎社長が行った「経営理念に基づく環境づくり」とは——。

今こそ、創業の原点に立ち返ろう

二〇一〇(平成22)年に三二歳で社長に就任したとき、会社は危機的状況にあった。巨額の借金を抱え、銀行からの新規借り入れもできな

い。社内は荒れ、社員のモチベーションも低かった。売上高はピーク時の六割にまで落ち込んでしまう。しかしその後、じわじわとV字回復。売

上高は今や、過去最高を記録する勢いだ。会社の姿を変えたのは、社員の意識の変化だった。社長の立崎仁さんはいう。「制度や仕組みなどの表面的な戦術では、会社は変わりません。大事なことは、考え方から整えていくこと

なんです」

植物の化学成分を解析して医薬品原薬や化粧品原料、食品添加物などを製造する素材メーカー。創業は一九四九(昭和24)年。「原爆の後遺症に悩む人々を救う治療薬として期待された植物由来成分